明治小

自ら学び、ともに深め合う力を育てる授業づくり

～よく聴き、考えを深める問題解決の場の工夫を通して～

（３年計画の４年次）

校　長　　八嶋　　俊次

１　研究主題について

本校では、教育目標に「豊かな心と学ぶ意欲をもち、たくましく生きる子」、努力目標に「よく考え学習する子、思いやりをもつ子、体をきたえる子」を掲げ、教育活動を展開している。また、今年度の学校目標を「児童の問題解決能力の向上～聴く力の育成と振り返りの充実～」とした。

本校の児童は、明るく素直で、教師から出された課題には意欲的に取り組んでいる。しかし一方で、自分で判断したり、行動したりすることに受け身になる傾向がまだ見られる。また、自信がもてないためか、自分の考えを表現することが苦手な児童も見られる。そこで、主体的に追究し解決する活動を通して、達成感や充実感を味わうことができるような授業づくりを研究していく必要があると考えた。

昨年度までは、集団解決の場において児童の思考や言語活動を促すための発問を工夫し、ともに深め合う力を育てる学習指導の充実・改善を図ってきた。 それにより、自分の考えをもって話合いに臨むことができるようになり、徐々に考えを深め合う力が向上してきている。また、児童の思考の流れが分かるような板書を工夫することにより、児童は自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようになってきている。しかし、お互いの考えを比べながら聴き、微妙なずれや共通点に気付く力が不足しているためか、論点を見失ってしまったり、思考が停滞したりしてしまう様子も見られた。また、振り返りの内容は、やや情意面に偏っていて、教科のねらいに合わせた振り返りをさせることが十分ではなかった。

そこで、今年度は、昨年度までの研究の成果を継続しつつ、課題の共有や発問の吟味など、これまでも「よく聴き、ともに深め合う問題解決の場の工夫」として実践してきたことを通して、「主体的・対話的で深い学び」を実感させることができるよう、ともに深め合う力を育てる学習指導の充実・改善を図っていくこととした。教科としては、昨年度に引き続き国語科に絞って研究し、さらに充実させていくこととした。

２　研究のねらい

児童の考えを広げたり深めたりするための効果的な指導のあり方を、国語科における授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

問題解決的な学習の実践を通して、児童の思考や言語活動を促すための働きかけを工夫したり、振り返りの場を設定したりすることにより、児童の考えが深まり、達成感や充実感を味わわせることができると考える。

４　研究内容

(1) 児童の思考や言語活動を促し、考えを広げたり深めたりさせるための働きかけの工夫

ア 児童の思考の助けとなる板書、児童の思考の流れが分かる板書、お互いの考えが見える板書をする。

イ 場に応じた発問の使い分けをし、児童の考えを引き出したり、友達の考えを聴く意欲をもたせたりする。

(2) 児童に達成感や充実感を味わわせ、学びを実感させるための振り返り

ア 児童に自分が学んだことや変化したことを自覚させる。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者等	授業の概要
6	１６	５学年　授業研究 「たずねびと」 授業者　田村　享太	「おばあさんの言葉を聞いてあなたならどう思う」という発問をすることにより、お互いの考えのズレに着目して聴き合うことができ、綾の心情の変化を捉えることにつながった。

6	２３	６学年　公開授業 「時計の時間と心の時間」 授業者　井畑　八千代	「事例に納得できているか、いないか、分からないか」という発問をすることにより、考えを比べながら聞くことができ、主張とそれを支える事例の関係について読み深めることにつながった。
7	7	１学年　授業研究 「はをへ」をつかおう 授業者　沼舘　優子	「わにはあらう。かおをあらう。を一つの文にできないか」という発問をすることにより、既習とのズレを生じさせ、助詞「は・を・へ」を正しい使い方について考えさせることにつながった。
9	２９	４学年　公開授業 「ごんぎつね」 授業者　下館　眞梨	文章を書き替えて提示し「ごんはどんなきつねか」と発問することにより、本文とのズレについて話したいという意欲をかき立て、ごんの人物像について、叙述を基に捉えさせることにつながった。
１０	１３	２学年　公開授業 「お手紙」 授業者　澤村　明香	「お手紙をうさぎに頼んだら･･･」と発問することにより、児童の反論したい意欲を高め、お手紙を待つ時間が幸せなものになったことを想像させることにつながった。
１１	１０	３学年　授業研究 「すがたをかえる大豆」 授業者　大嶌　禎子	「カードの色が同じ食品はどんな仲間だろう」と発問することにより、文中の決まりを探す必要感が生じ、話合いの過程で分類の視点を読み取らせることにつながった。
１２	１５	いちょう学級公開授業(自立) 「ルールについて考えよう」 授業者　中村　好秀	アンケートの結果を基に「ルールについて考えよう」という発問をすることにより、よりよい学校生活を送っていくための言動や適切な行動について児童の意識を高めることにつながった。

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
9	1	1 人 1 台端末を活用した授業づくりⅡ 講師：八戸市総合教育センター　主任指導主事　大下洋一先生
12	17	「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための指導法改善 指導助言：教育指導課　副参事（実践支援グループリーダー）兼主任指導主事 日向端　聖先生
12	22	1 人 1 台端末を活用した授業づくりⅢ 講師：八戸市総合教育センター　主任指導主事　石井一二三先生

6　研究の成果

(1) 主に発問や板書を工夫することで、互いの思いや考えをよく聴き、理解し合う等、学びの広がりや深まりが見られた。話合いや振り返りの過程で自らの学びを見つめ直し、修正したり新たな考えを発見したりすることが、自ら学び、ともに深め合う力の育成につながることが分かった。

(2) 全学級による授業公開を実施することによって、様々な発問（しかけ）の事例や手法、問題解決の場面を学ぶことができ、それらを日常の実践に生かすことができた。

7　研究の課題

(1) 個々の考えをもたせること、発言の場を保障すること、全体の場で効果的に共有させることなど、限られた時間を最大限に活用するための指導過程の工夫が必要である。

(2) 異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す協働的学びの実現に向けて、学びに向かう力を育成したい。

（記入者　　大嶌　禎子）